



米国株 MARKET PICK UP



先週の米国株式市場—ダウ平均週間で4%近い大幅安 10月以降の上昇の反動か—

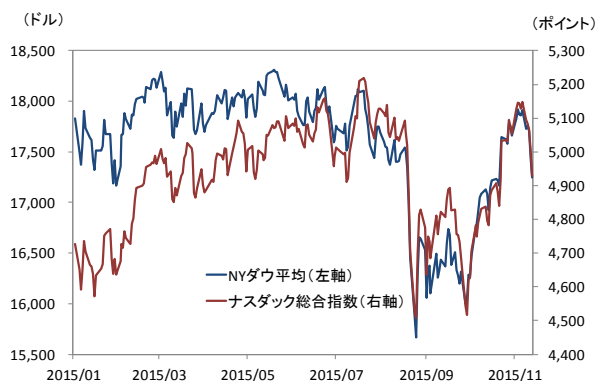
	前週終値	11月9日	11月10日	11月11日	11月12日	11月13日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	17,910.33	17,730.48	17,758.21	17,702.22	17,448.07	17,245.24	-665.09	-3.71%
騰落幅		-179.85	+27.73	-55.99	-254.15	-202.83		
S&P500	2,099.20	2,078.58	2,081.72	2,075.00	2,045.97	2,023.04	-76.16	-3.63%
騰落幅		-20.62	+3.14	-6.72	-29.03	-22.93		
ナスダック総合指数	5,147.12	5,095.30	5,083.24	5,067.02	5,005.08	4,927.88	-219.24	-4.26%
騰落幅		-51.82	-12.06	-16.22	-61.94	-77.20		

＜今週の概況＞

先週の米国株式市場はダウ平均が週間で3.7%の大幅安となりました。ハイテク株比率の高いナスダック総合指数は5日続伸で4.3%下落しています。

原油価格の下落やFRB高官の12月利上げに前向きな発言などはあったものの、週間で4%の大幅安となるような材料ではなく、10月以降のほぼ一本調子の上昇で過熱感が出ていたところに利益確定売りが重なったとみられます。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



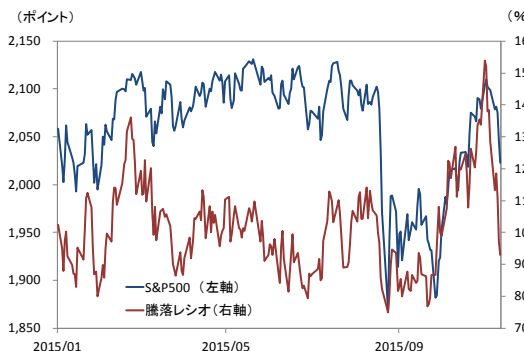
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	15.6	3.0	2.6%
S&P500	17.1	2.7	2.2%
ナスダック総合指数	22.3	3.7	1.2%

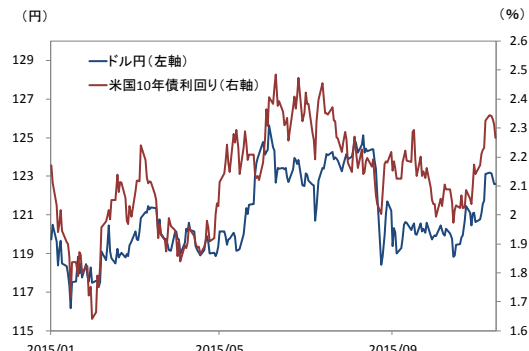
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2015年11月13日時点)

S&P500と騰落レシオの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

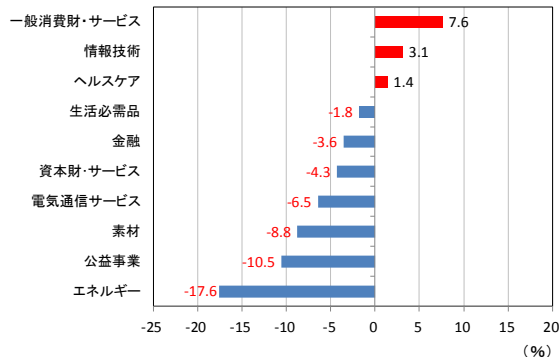
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

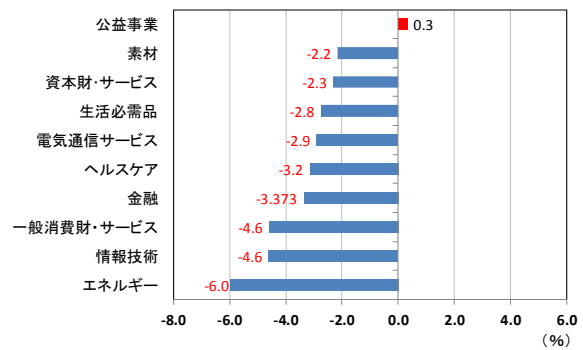
業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング(11/9-11/13)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
DD	イー・アイ・デュポン・ドゥ・ヌムール	1.4
GE	ゼネラル・エレクトリック	1.2

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

値下がり率ランキング(11/9-11/13)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
CSCO	シスコシステムズ	-7.9
XOM	エクソンモービル	-7.5
NKE	ナイキ	-7.5
AAPL	アップル	-7.2
CAT	キャタピラー	-5.7
CVX	シェブロン	-5.7
INTC	インテル	-5.1
HD	ホーム・デポ	-4.7
IBM	IBM	-4.7
GS	ゴールドマン・サックス・グループ	-4.4

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

<上昇>

ダウ平均採用の30銘柄中上昇はデュポン (DD) とゼネラル・エレクトリック (GE) の2社のみにとどまりました。デュポンは暫定的なCEOが正式にCEOに指名され、今後の業績向上期待がたかまったとみられます。

<下落>

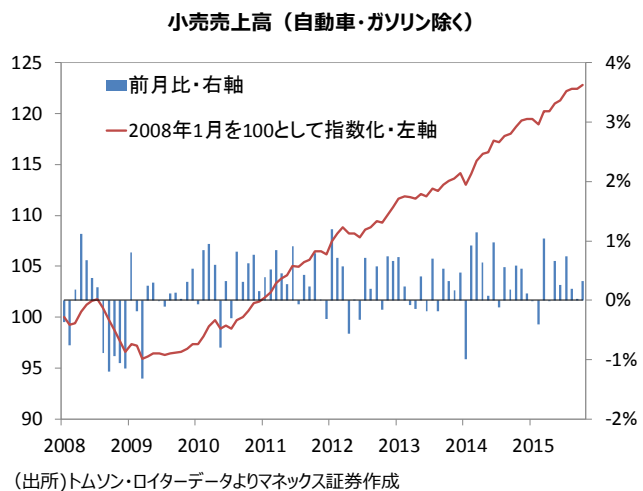
発表した11-1月期の売上見通しが市場予想を下回ったシスコシステムズ (CSCO) が大きく売られ、原油安でエクソン・モービル (XOM) とシェブロン (CVX) の2社も大幅安となりました。

先週発表された主な経済指標

小売売上高（除く自動車・ガソリン） 10月 +0.3% 市場予想 +0.4% 前月 ±0%

13日に発表された10月の米小売売上高は変動の大きい自動車とガソリンを除く売上高が前月比0.3%増となり、市場予想の+0.4%増を下回りました。

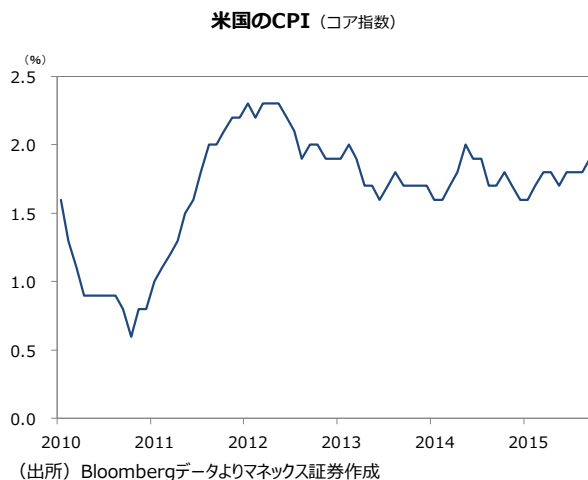
市場予想を下回ったとはいえ増加基調を維持しており、個人消費は堅調に推移していると判断できそうです。



今後発表される主な経済指標

10月 消費者物価指数（CPI | コア指数・前年比） 市場予想 +1.9% 前月 +1.9%

17日に10月の消費者物価指数（CPI）は発表されます。食品とエネルギーを除いたコア指数は前年比1.9%の上昇と予想されています。市場予想と一致、または僅かに下回る程度であればマーケットの年内利上げ観測に大きな変化が出る可能性は低いとみられます。



マーケットビューー短期的なリスクオフ到来かー

先週のマーケットビューーでは、筆者が集計しているS&P500の騰落レシオに割高感があり、短期的な調整に注意したい局面と記しました。結果的にダウ平均が週間で4%近く下落するなど、米国株は大きく下落しました。ダウ平均はサポートラインとして意識されやすい200日移動平均をあっさり割り込みました。

マーケットに調整ムードが出たところに、フランスで大規模なテロ事件が発生したことで、投資家の短期的なリスク資産離れが進み、“リスクオフ”ムードが高まることが予想されます。ダウ平均は16,750~17,000ドル程度まで調整する可能性があるかとみています。

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

ご留意いただきたい事項

マネックス証券(以下当社)は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。

本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。

なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、[「リスク・手数料などの重要事項に関する説明」](#)をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会